

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立ぐんま天文台
所在地	吾妻郡高山村中山6860-86
所管部局・課	教育委員会 生涯学習課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条、群馬県立ぐんま天文台の設置及び管理に関する条例

2 施設の役割

(1) 設置目的

天文学に関する県民の理解を深め、もって教育・学術及び文化の発展に寄与するため、群馬県人口200万人到達を記念した後世に残る文化資産として、県民が天体観望によって天文学に親しめる機会を提供し、天文教育普及を図るために設置

(2) 設置当初の状況

ア 本物の体験、イ 開かれた利用、ウ 学校や生涯学習との連携、エ 観測研究、オ 国際協力という5つの基本方針の下に運営

(3) 施設を取り巻く現状

「公共施設のあり方検討委員会」の中間答申後、人員・経費の半減に取り組んできたが、平成25年10月に、開設後14年が経過し、県民の価値観の多様化や、施設を取り巻く社会・経済情勢も大きく変化してきたことから、設立当初からの基本方針を改正し、今後の運営基本目標を「天文学の教育普及に重点を置き、『天文学を通じて学校・地域と協働し、多様な学習機会を提供する教育施設』として、効率的な施設運営と利用者の拡大に努め、県民に親しまれるぐんま天文台として運営する。」と定めた。

これに伴い事業実施方針を、Ⅰ 本物の体験、Ⅱ 開かれた利用、Ⅲ 学校・地域との協働と定め、事業に取り組んでいる。

3 施設の概要

設置年月日	平成11年7月21日
敷地面積(所有者)	69,625.00平方メートル(群馬県)
主な施設(床面積、階数等)	建築面積1,743.38平方メートル、延床面積3,346.15平方メートル、本館棟地上3階建、11メートルドーム棟地上3階地下1階建、7メートルドーム棟地上3階地下1階建、観望棟地上1階地下1階建
建設費	5,523,000千円

◇入園料・利用料等

(円)

◇利用時間(休館日)

区分	金額	
一般	個人300円 団体(20人以上)240円	<3~10月> 10:00~17:00 施設見学、19:00~22:00 天体観望 <11~2月> 10:00~16:00 施設見学、18:00~21:00 天体観望
大学生・高校生	個人200円 団体(20人以上)160円	
中学生以下、障害者手帳を持つ方及びその介護者1名は無料		休館日: 月曜日(火曜日夜間は機器メンテのため閉館)

4 施設における実施事業

○天文台施設運営 施設見学・天体観望・ホームページ等施設公開
○教育普及 天文学のすそ野拡大事業（天文授業サポート、出張天体観望会、学校の望遠鏡診断・操作指導） 子ども天文学校推進事業（子ども向け広報誌作成配布、子ども宇宙教室） 天文セミナー（天文学校、談話会等開催） イベント開催（定時イベント、県民の日イベント、流星群等観望会、スタンプ・クイズラリー等実施） 学校教育等支援（SSH、SPP等学校利用受け入れ、（幼稚園・保育園を含む）） その他普及事業（広報誌・パンフレット・イベントカレンダー作成配布、望遠鏡操作資格講習会実施、連続講演会、観測体験時間、天文台夏祭り等（地域機関、関係団体等との連携を含む）、星空ガイド養成等）
○観測研究 共同観測研究（群馬大学・放送大学等との連携等）、職員研究（各種学会発表、論文投稿等）

5 管理運営コストの状況

(千円)

区 分	29年度(当初予算額)	28年度(決算額)	27年度(決算額)	26年度(決算額)	25年度(決算額)
歳 入 (1)	4,883	5,017	5,078	4,580	5,061
使用料	4,535	3,909	4,329	3,775	4,858
雑入(自販機電気料・科研費等)	348	1,108	749	805	203
受託事業収入(国立天文台受託研究)	0	0	0	0	0
歳 出 (2)	241,362	149,837	156,186	152,855	170,078
常勤職員	91,064	89,385	88,455	86,446	83,295
非常勤職員	4,578	3,906	4,496	4,650	5,807
修繕・工事費	516	8,726	13,940	10,316	8,963
委託費	129,241	33,939	34,681	34,587	36,110
その他	15,963	13,881	14,614	16,856	35,903
歳入・歳出の差額(1)-(2)	▲ 236,479	▲ 144,820	▲ 151,108	▲ 148,275	▲ 165,017
歳入・歳出の主な増減理由	29年度(当初予算額)歳出の増分は「150cm望遠鏡制御システム更新等」経費分である				

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度
常勤職員	10	10	10	10	10
臨時・非常勤職員	4	4	4	4	5
合 計	14	14	14	14	15

7 施設利用の状況

区 分	29年度※	28年度	27年度	26年度	25年度
年間利用者総数(人)	10,477	29,018	29,513	27,976	34,662
有料利用者数(人)	4,777	13,156	14,637	12,920	16,478
無料利用者数(人)	5,700	15,862	14,876	15,056	18,184
目標利用者数(人)	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000
利用者の主な増減理由	平成26年度以降は夏期(7~9月)の天候不順により入館者の減少が続いている。				

※ 見込み数又は途中実績を記入(H29.7.31現在)

8 必要性及び管理運営方法の方向性

区分	内容
施設の必要性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県の施設としてこのまま存続 <input type="checkbox"/> 県の施設として事業規模等を縮小して存続 <input type="checkbox"/> 市町村に移管・譲渡 <input type="checkbox"/> 民営化・民間譲渡 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> ぐんま天文台は、国内最大級の大口径望遠鏡等を活用した体験施設であり、次代を担う子どもたちに対し本物体験及び感動の機会を提供し、自然に対する探求心や科学への興味、豊かな感性を育むことのできる貴重な施設である。 土日等は夜間も開館し一般に天体観察の機会を提供している他、学校教育を補完する理科等の校外学習の場として、日中だけでなく希望に応じて平日の夜間も対応している。 平成28年度は29,018人の来館者があり、学校利用(小中高特)は86校3,803人であった。 観光施設として県外からの利用も多く、地域の観光資源としての役割も果たしている。 </p>
指定管理者制度	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 「口径1メートル以上の望遠鏡を持つ地方自治体設置の公開天文台」に関する調査(H26年4月)では、対象9施設中、指定管理者制度を導入していたのは2施設のみ(うち1施設はPFI)であった。また、直営7施設のうち1施設は、一度指定管理者制度を導入したものの後に直営に戻したものであった。 また、この調査の後、指定管理者制度を導入していた「かわべ天文公園」(日高川町)は、専門職員が全員退職してしまったため運営が立ちゆかなくなり、平成26年12月から天文台・プラネタリウムを閉鎖している。 ぐんま天文台についても、教育施設としての性格から採算性がなく利用料金制は採用できず、高度な専門性が必要なため受け手となる具体的な団体の候補がない。 こうしたことから、指定管理者制度による運営方法は難しいものと考えられる。 </p>
業務等の見直し	<p> <input type="checkbox"/> 見直しの検討が必要なものがある <input checked="" type="checkbox"/> 当面見直しの必要はない </p> <p> 平成21年度～24年度の「公共施設のあり方に関する中間報告」における提言を踏まえた見直しとして、次のような見直しに取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・正規職員の削減(開館時(H12)18人 → (H29)10人) ・管理運営費の削減(各種業務委託の見直し)や、事業の見直しによる経費削減(H20 約182百万円 → H28 約85百万円) </p> <p> 最近の取組 </p> <p> (1) 営業活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・平日の来館者対策として、学校等団体の確保が不可欠であることから、昨年から引き続き県内各市町村教委への働きかけを行うとともに、県内大学・専門学校の利用促進を図る。 </p> <p> (2) 広報活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・HPのほか、道の駅「中山盆地」でのイベント等で天文台の情報提供 ・高速道路PAへの天文台リーフレット・チラシの設置 ・昨年度から引き続き、各種イベント等のマスコミへの情報提供のほか、CM撮影、各種情報誌、雑誌等の記事掲載への協力 </p> <p> (3) 大学等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・天文台利用促進の観点のほか、使命である天文学の教育普及をはかるため、大学等の高等教育機関(特に近在に開学した日本アカデミー)との連携を模索する。 ・このほか、公立の他施設との連携による天文台の紹介及び教育普及に取り組む。 </p> <p> (4) 地域振興・観光振興への貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興の一翼を担う立場から、「星空観光推進連絡協議会」の活動を主導する。 </p> <p> (5) 来館者サービスの維持向上及び安全確保 <ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中で、施設・設備の補修や営繕の実施 </p>